

参 考 资 料

最終年次の研究の経過

No. 1

月日曜	内 容
4月7日(水) 総合学習係会	初会合衣笠中平成16年度総合学習の概要説明と今後の作業予定の確認 次回準備 <ul style="list-style-type: none"> 各学年単元の素案作成 年間、一学期授業時数、係会と学年会の日程準備 各学年まとめ取りの時期、とり方の検討とすり合わせ
4月14日(水) 総合学習係会	<ul style="list-style-type: none"> 各学年単元案の提出の説明と検討。明日の学年会で提案。教科とのかかわりを各自が記入。 来週木曜4限の係会で改訂版提案。 来週の選択ガイダンスのタイムスケジュール検討を明日の運営委員会で検討。その次の週4/28(水)の総合でガイダンスを行う。
4月20日(火) 教育課程推進委	<ul style="list-style-type: none"> 全体構想図の作成の必要 教科、総合的な学習の時間、生徒会活動、読書とのかかわりの中での研究推進の進め方 生徒会の委員会等の活動を年間で調整し、「伝え合う力」との関連を考える。
4月22日(木) 総合学習係会	<ul style="list-style-type: none"> 「きぬかけのみち」オリエンテーションプリント検討とオリエンテーション日程調整 1年生指導案の説明 フィールドワークの方法と題材集めについて
4月27日(火) 教育課程推進委	<ul style="list-style-type: none"> 「きぬかけのみち」オリエンテーションプリント検討 国語力向上研究推進委組織表の検討 次回までに研究と事務局の役割分担 冊子の内容について、研究構想図について考えていく
5月6日(木) 総合学習係会	<ul style="list-style-type: none"> 1, 2年総合単元指導計画の検討, 2年の総合オリの様子報告 教師の指導記録, 生徒の記述記録残す。 生徒用記録用紙について1年 5月18日, 19日の1, 2年フィールドワークについて, 内容, 事後の指導 夏季研修会の中で学年で総合の指導の打ち合わせができる時間の設定を。
5月10日(月) 教科会	<ul style="list-style-type: none"> 予算の計画的な執行 年間指導計画, 評価計画の作成別紙プリントを参照して 指導要領の年間最低時間を越える教科の内容, 単元の検討
5月11日(火) 教育課程推進委	<ul style="list-style-type: none"> 国語力向上研究推進委員会組織表, メンバーの役割分担。 冊子原稿の柱立てと分担の大枠 年間の研修計画について 一次案内, 二次案内の発送について
5月13日(木) 総合学習係会	<ul style="list-style-type: none"> 一年生各クラスイメージマップ作り 感想, 二年生のオリ感想社会, 数学で相互環流がみられる。 三年生のオリ感想 ポートフォリオづくりと評価に生かす プリント教師, 生徒の感想, やプリントのDATAを残す 総合用の図書購入の検討
5月21日(金) 臨時総合学習係会	<ul style="list-style-type: none"> 一年フィールドワークの事後報告 積極的に行動インタビュー, 計画立案も好き, 教師のサジェスション内容の検討の必要。調査結果の報告会の時間がもっとほしかった。 二年フィールドワークの事後報告 調査場所を特定しすぎたきらいがあり, 回る時間が早かった。 ともかくいろいろな情報を集めて, その上で課題を見つけさせる。課題発見までに時間と格差が出そう。 生徒の指導の方向性は教師が練る。生徒任せの課題の発見はない。常に目標, 内容, つけたい力でチェック, 吟味の必要。 佐藤助教授の「学習指導要領の一部改正に伴う, 総合的な学習の時間の一層の充実」を参考に

月日曜	内 容
5月25日(火) 教育課程推進委	<ul style="list-style-type: none"> 国語力向上一次案内の確認 一学期研修計画, 夏期研修内容の検討(特に研究発表の原稿執筆と役割分担を急ぐ) NRTの分析と活用について, 課外学習の取り組みについて 2年生チャレンジ体験について 平成15年12月26日学習指導要領一部改正後の解説書の付加部分についての説明 中等教育資料の本校国語力向上の取り組みの原稿の紹介と6月30日の教育改革実践講座について
5月27日(木) 総合学習係会	<ul style="list-style-type: none"> 1年生「きぬがさ」からイメージを広げよう 文字でなく絵によって視覚からイメージを広げる練習・・・建物, 自然, 道に意識が行っている。 2年生「上七軒」のグループなどは, 興味を持ってどんどん追究していている。ただしまとめて, 発表はない。それが終点でない。 3年生は次回報告 「総合的な学習の時間」全体計画を参照しながらの各学年の報告の検討と今後の方向性についての意見交換
6月3日(木) 教育課程推進委	<ul style="list-style-type: none"> 6月5日の校内研修会の内容 研究内容の方向についての検討, これからの時代に求められる国語力についての答申の読み合わせ 研究発表会に向けて, 冊子の種類と原稿の内容, 研究発表会の持ち方全日か半日か 発表当日までの日程, 読書の時間(木曜日ゆとりの時間)
6月5日(土) 職員研修会	<ul style="list-style-type: none"> 全体会 文化審議会答申の説明 研究活動の方向について 研究冊子への集約 研究報告会の持ち方 公開授業の方向と指導案 研究発表会事務について 今年度の通知票について
6月10日(木) 総合学習係会	<ul style="list-style-type: none"> 1年生イメージを広げる練習を絵や図で, 掲示。カテゴリーを決め分類し自分の考えを言わせる。教科との相互環流。 2年生ポストイット風に考え張らせる。目に見える活動にしてほしいとの要望。数や分野に偏り。 1, 2年生に夏休みに宿題, 9月に課題決定 3年生テーマを出して町に必要なものを発想。クラスでは出尽くした。七つのまとまりに当てはめてみたらよい。
6月16日(火) 教育課程推進委	<ul style="list-style-type: none"> 夏期研修の内容について 6日研究発表, 教科会, 伝達研修など30日特別支援教育, 学年会など8月6日以降に教科, 総合のルーブリックづくりを 夏休み前, 中, 2学期の推進委員会の日程と内容, 夏季休業中に原稿完成, 2学期に原稿の校正と指導案作りのペースで。
6月17日(木) 総合学習係会	<ul style="list-style-type: none"> 第Ⅱ期時間割からの「総合的な学習の時間」の時間配分の検討とまとめ取りの時期と方法の検討 1年 予定通り。1学期中にテーマが見つければよい。夏休みの宿題も検討。 2年 クラスによって活動内容やすすみ具合に差がある。班の活動による差と思われる。 3年 自分はどのような街をつくらたいのかを考える。フィールドワークに向けて, カテゴリーに分ける。育成の生徒との, 今後の交流学习のあり方は。
6月21日(月) 教科会	<ul style="list-style-type: none"> 夏休み課題の検討 研究授業者候補, 原稿執筆者の選定の検討など
6月21日(月) 教育課程推進委	<ul style="list-style-type: none"> 夏休みまでの取り組み 原稿執筆, 公開授業, 読書の時間 夏期研修会 8月6日, 8月30日 研究発表会の持ち方について

月日曜	内 容
6月22日(火) 教育課程推進委	<ul style="list-style-type: none"> ・夏季休業中の教育課程推進委員会+総合学習係合同会議の設定 ・公開授業の形式と担当者の再検討と教職員に意見聴取 ・指定クラスの形か、全クラス授業公開か ・公開授業後の協議会は全体で行う
6月24日(木) 総合学習係会	<ul style="list-style-type: none"> ・2学期始業式の総合まとめどりについて ・1年夏休みに深める。まとめ取りに向けた取り組み。ほぼ予定通り。分類だけで終わらず系統性を持たせるように。 ・2年クラスでかなり差。指導者の言葉で立ち止まって考えたり、そのまま進んだり。進捗状況やつまづきをお互いに出させる発表会もよい。 ・3年個人差が大きい。発想できる子、できない子。書ける子、書けない子。ウエビングができない。トレーニングの必要。元に戻る。揺さぶりをかけるのにフィールドワークもあり得る。 ・研究発表会で総合の公開授業もある。 ・総合の評価について評価規準表を参考に
6月29日(火) 教育課程推進委	<ul style="list-style-type: none"> ・7月15日(木)の西岡助教授の校内研修の内容について検討 ・8月6日(金)8月30日(月)の校内研修会の内容検討 ・教科主任に8月30日(月)までに冊子原稿を仕上げる
7月1日(木) 総合学習係会	<ul style="list-style-type: none"> ・1年夏休みに宿題を出す予定。9月1日に課題の最終決定を予定 ・2年テレビのVTRを見てやることのイメージをつかめた生徒がいるようだ ・3年最終的に講座制は困難のようで、学級単位に落ち着きそう
7月6日(火) 教育課程推進委	<ul style="list-style-type: none"> ・研究発表の本発表の協議について、シンポジウムの形 国語、教科、総合、生徒指導等でパネリスト、指導主事がコメンテーター、学校長がコーディネーターアンケートに答える形で話す。本校の取組の過程についても話す。
7月11日(木) 総合学習係会	<ul style="list-style-type: none"> ・1年校外での活動のパト、マナーをどうするか。教師が解決するのではなく、生徒に考えさせる。試行錯誤、遠回りでもよい。生徒に失敗させないのか。 ・2年7/14はフィールドワークの予定をたてる。各クラスの班ごとの進捗状況、生徒の気づきや方向転換の場合のポートフォリオ的に残す。 ・3年「みること」とはの資料、単元の学習指導案でなくても授業の後の覚え書きでもよいから書き残していく。 ・夏季休業中の総合学習係会での研修で、学習指導要領の解説書の「総合的な学習の時間」の項の読み合わせをしてみてもどうか。
7月16日(金) 教育課程推進委	<ul style="list-style-type: none"> ・西岡先生の研修の反省会 ・夏季休業中の研修の内容について
8月3日(火) 教育課程推進委	<ul style="list-style-type: none"> ・夏期校内研修の午前中の内容について ・教科会の話し合いのポイントについて
8月4日(水) 総合学習係会	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領総則の第4節「総合的な学習の時間」の取り扱いについての学習会
8月4日(水) 教育課程推進委	<ul style="list-style-type: none"> ・夏期研修会での発表内容(評価活動の実践)についての検討 ・研究発表会当日の日程について
8月5日(木) 教育課程推進委	<ul style="list-style-type: none"> ・研究発表会の日程とシンポジウムの発表者について
8月6日(金) 夏期研修会	<ul style="list-style-type: none"> ・研究発表会の要項について

月日曜	内 容
8月25日(水) 総合学習係会	<ul style="list-style-type: none"> 各学年の9月1日の総合まとめ取りの中身について 二学期の大まかな単元の確認 国語力向上の二次発表時の内容・指導案について
8月25日(水) 教育課程推進委	<ul style="list-style-type: none"> 各教科の冊子原稿の進捗状況と30日の各教科の検討すべき内容 冊子原稿の校正と仕上げの時期のタイムテーブルの確認とまとめ 読書小委員会からの提案について 研究発表の二次案内原稿検討
8月27日(金) 教育課程推進委	<ul style="list-style-type: none"> 読書小委員会からの提案について、木曜6限の取組と朝読書について、図書委員会の取組 研究発表の二次案内原稿検討 研究冊子原稿の見積もり等について
8月30日(月) 夏期研修会	<ul style="list-style-type: none"> 「読書の時間」について 教科会で論文内容の確認、公開授業の方向性について
9月1日(水) 教育課程推進委	<ul style="list-style-type: none"> 研究発表当日までの日程細案の検討 案内状、研究冊子、指導案集、学習指導計画表・評価表の見積もりの検討 冊子原稿検討の分担 冊子原稿内容の検討「音楽科」
9月2日(水) 教育課程推進委	<ul style="list-style-type: none"> 冊子原稿内容の検討「保健体育科」「社会科」「理科」「技術・家庭科」
9月6日(月) 教育課程推進委	<ul style="list-style-type: none"> 研究構想図の検討 冊子原稿内容の検討「社会科」
9月7日(火) 教育課程推進委	<ul style="list-style-type: none"> 研究本冊子、学習指導案集、学習指導計画表の編集分担 「総合的な学習の時間」の基本的な考え方原稿検討 9月、10月の職員研修の日程、内容の確認
9月7日(火) 教科会	<ul style="list-style-type: none"> 教科論文校正と公開授業の検討について
9月8日(水) 教育課程推進委	<ul style="list-style-type: none"> 「総合的な学習の時間」冊子の内容の検討 研究冊子構想図の検討 今後の日程詳細案の検討
9月9日(木) 総合学習係会	<ul style="list-style-type: none"> 各学年の実施記録の記入法について 9月1日の時間について、夏季休業中の課題の提出状況と内容について 今後の予定、本発表の時の学習内容について
9月9日(木) 職員研修	<ul style="list-style-type: none"> 全体構想図の説明 研究発表についての確認事項
9月13日(月) 教育課程推進委	<ul style="list-style-type: none"> 冊子原稿の検討「理科」「数学科」 冊子原稿の検討「研究概要」
9月13日(月) 総合学習係会	<ul style="list-style-type: none"> 冊子原稿の検討各学年「総合的な学習の時間」の取組
9月15日(水) 教育課程推進委	<ul style="list-style-type: none"> 冊子原稿の検討「美術」

月日曜	内 容
9月16日(木) 総合学習係会	<ul style="list-style-type: none"> 1年10月13,20日に夏休み調べの発表。時間の見通し, 発表形式, 方法の検討 2年9月22日から3回中間発表。進行状況の発表 3年発表準備。自分たちの発表にふさわしい形態を考えさせる。
9月16日(木) 教育課程推進委	<ul style="list-style-type: none"> 冊子原稿の検討「研究概要」
9月17日(金) 教育課程推進委	<ul style="list-style-type: none"> 冊子原稿の検討「研究概要」
9月21日(火) 教育課程推進委	<ul style="list-style-type: none"> 今後の取組予定 各教科, 総合, 特活, 総論, 指導案について 年間指導時数の記入 二次案内送付の確認
9月22日(水) 教育課程推進委	<ul style="list-style-type: none"> 冊子原稿の検討「研究概要」
9月24日(金) 総合学習係会	<ul style="list-style-type: none"> 1年9/22の発表に問題。内容, 見える物の説明ばかり。 2年中間発表一回目。生徒緊張気味。 3年発表の準備段階。発表が模造紙中心に偏る。プレゼンの手法説明の必要。
9月27日(月) 教育課程推進委	<ul style="list-style-type: none"> 冊子原稿の検討「英語科」「音楽科」「技術家庭科」 総論発表者, シンポジストの発表内容の確認 今後の原稿検討の分担
9月28日(火) 教育課程推進委	<ul style="list-style-type: none"> 冊子原稿の検討「生徒会」「育成」「技術・家庭科」
9月29日(水) 教育課程推進委	<ul style="list-style-type: none"> 京都市教育委員会指導主事との発表当日のシンポジウム打ち合わせ 原稿の最終校正(各教科と総合的な学習の時間)の分担 発表当日の時間の流れについて 直前の取組日程の作成と確認について 冊子の目次の確認 学習指導計画, 評価計画表の印刷について
9月30日(木) 教育課程推進委	<ul style="list-style-type: none"> 直前の取組日程について 冊子原稿検討「育成」「社会」「保健体育」 冊子原稿検討「総合的な学習の時間」

「読書」についてのアンケート

衣笠中学校図書委員会

「朝読書」を初めとするあなたの「読書生活」は、どのようなものになっているでしょうか。
次のアンケートに答えて振り返ってください。

I. 「朝読書」について

問1. あなたは8時20分の「予鈴」で「朝読書」を始めていますか。

- ①「予鈴」の前から始めている
- ②「予鈴」がなれば始める
- ③「予鈴」がなっても始められていない

1年	2年	3年	全体	1年	2年	3年	全体
13	15	11	39	6%	8%	5%	6%
105	58	38	201	49%	30%	18%	32%
98	120	162	380	45%	62%	77%	61%

問2. あなたは8時25分の「本鈴」では「朝読書」を始めていますか。

- ①「本鈴」の前から始めている
- ②「本鈴」がなれば始める
- ③「本鈴」がなっても始められていない

1年	2年	3年	全体	1年	2年	3年	全体
96	62	36	194	44%	33%	19%	32%
91	82	94	267	42%	43%	48%	44%
31	46	64	141	14%	24%	33%	23%

問3. あなたは8時30分の「朝読書終了本鈴」のチャイムが鳴ったときにはどのようなことをしていますか。

- ①朝読書をしている
- ②その他のことをしている。

1年	2年	3年	全体	1年	2年	3年	全体
168	137	149	454	78%	72%	72%	74%
48	54	59	161	22%	28%	28%	26%

※1. ②と答えた人は具体的に一つ二つ挙げてください

- ・1時間目の用意。 ・ぼうっとしている。 ・しゃべっている。

問4. あなたが「朝読書」で読んでいる本は誰（どこ）の本が多いですか。

多い順に番号を1・2と付けてください。

(一つだけの人は1だけ書いてください)

- ①自分の本
- ②友達の本
- ③家の本
- ④図書室の本
- ⑤その他
 - ・教室の本

1年	2年	3年	全体	1年	2年	3年	全体
137	125	128	390	64%	67%	64%	65%
7	8	20	35	9%	4%	10%	6%
44	43	33	120	20%	23%	17%	20%
20	9	13	42	9%	5%	7%	7%
7	1	5	13	3%	1%	3%	2%

問5. 「朝読書」終了のチャイムが鳴ったときのあなたの気持ちを次より選んでください。

- ①もっと読みたい
- ②もう（あと）少し読みたい
- ③やっと終わった
- ④その他

1年	2年	3年	全体	1年	2年	3年	全体
36	30	42	108	17%	16%	20%	17%
101	79	94	274	47%	42%	44%	44%
74	70	60	204	34%	37%	28%	33%
5	11	16	32	2%	6%	8%	5%

- ・終わったなあ。 ・きりがいいところまで読みたい。

問6. あなたにとって「朝読書」の時間はどのような時間ですか。一語で教えてください。

- ・静か・ゆっくり・楽しい・ちょうどいい・眠い・暇な・楽しみ・安らぐ・ゆとり・いやな・リラックス
- ・ほっとする・落ち着く・知識・すっきり・おもしろい・始まり・まじめ・集中する・短い・夢・向き合う
- ・嫌な・息抜き・夢中・のんびり・触れ合う・大切な・退屈・朝一番・貴重な・必要な・最高・最悪・気楽
- ・わくわく・有意義・成長・リフレッシュ・黙る・いい・むだな・面倒・びみょう・とりあえず・疲れる

問7. あなたは「朝読書」で読む本の話題を友達や家族とすることがありますか。

- ①よく話をする
- ②わりと話をする方である
- ③ときどき話をする
- ④話をしない

1年	2年	3年	全体	1年	2年	3年	全体
10	6	8	24	5%	3%	4%	4%
15	10	31	56	7%	5%	15%	9%
73	67	66	206	34%	33%	32%	33%
116	120	102	338	54%	59%	49%	54%

問8. 「朝読書」を続ける中であなたの本や読書に対する考え方は変わりましたか。

- ①大いに変わった
- ②少し変わった
- ③あまり変わっていない
- ④変わっていない

1年	2年	3年	全体	1年	2年	3年	全体
6	10	16	32	3%	5%	8%	5%
83	51	64	198	39%	26%	31%	32%
68	59	66	193	32%	31%	32%	31%
57	73	61	191	27%	38%	29%	31%

II. 学校での読書について

問9. あなたは、4月から授業以外で図書室に行きましたか。

- ①ほとんど毎日行った
- ②ときどき行った
- ③1回行った
- ④行かなかった

1年	2年	3年	全体	1年	2年	3年	全体
7	3	9	19	3%	2%	4%	3%
104	43	67	214	48%	22%	31%	34%
53	41	35	129	24%	21%	16%	21%
53	105	104	262	24%	55%	48%	42%

※1. ①「ほとんど毎日行った」、②「ときどき行った」と答えた人は、何のために行ったのですか。

○は一つに限りません。

- ①本を読むため
- ②本を借りたり、返したりするため
- ③宿題や予習をするため
- ④友達と話し合うため
- ⑤その他

・エアコンにあたりにいていた。 ・図書当番のため。

1年	2年	3年	全体	1年	2年	3年	全体
62	22	43	127	38%	33%	36%	36%
42	21	29	92	58%	32%	24%	26%
10	7	13	30	6%	11%	11%	9%
23	10	26	59	14%	15%	22%	17%
25	6	9	40	15%	9%	8%	11%

問10 「朝読書」の時間以外にも、あなたは学校で読書をすることがありますか。

- ①よくする
- ②わりとする
- ③あまりしない
- ④全くしない

1年	2年	3年	全体	1年	2年	3年	全体
16	12	18	46	7%	7%	8%	8%
23	23	32	78	11%	13%	15%	13%
73	54	74	201	34%	30%	35%	33%
103	89	90	282	48%	50%	42%	46%

※①「よくする」、②「わりとする」と答えた人は、いつの時間にしていますか。○は一つに限りません。

- ①朝読書が始まる前に
- ②授業と授業の間の10分間に
- ③昼休みに
- ④放課後に

1年	2年	3年	全体	1年	2年	3年	全体
15	8	11	34	21%	14%	15%	17%
27	21	29	77	38%	36%	39%	38%
23	23	30	76	32%	40%	41%	37%
7	6	4	17	10%	10%	5%	8%

問12 あなたは「朝読書」の時間以外にも「読書の時間」があればいいと思いますか。

また、そう思う理由を書いてください。

- ①ぜひあればよい
- ②どちらかというところがあるほうがよい
- ③どちらかというところのないほうがよい
- ④ないほうがよい

1年	2年	3年	全体	1年	2年	3年	全体
35	27	45	107	16%	13%	22%	17%
73	54	60	187	33%	26%	29%	30%
75	67	63	205	34%	33%	30%	32%
36	58	40	134	16%	28%	19%	21%

- 肯定的理由
- ・5分では足りない。(もっと読みたい・中途半端で終わる)
 - ・家では本を読まないから。
 - ・もっといろいろな本を読みたいから
 - ・続きを読みたい
- 否定的理由
- ・朝読書だけで十分
 - ・本がおもしろくない。

問13 あなたは学校の図書室がどんな図書室だったら良いと思いますか。三つまで○で囲んでください。

- ①良い本やおもしろい本がたくさんある(図書室)
- ②勉強に役に立つ本がいっぱいある(図書室)
- ③雑誌や新聞がいっぱいある(図書室)
- ④マンガがたくさんある(図書室)
- ⑤明るく、気持ちよく利用できる(図書室)
- ⑥教室から近くて便利なおところにある(図書室)
- ⑦本を探したり、相談に乗ってくれる人がいる(図書室)
- ⑧その他

1年	2年	3年	全体
180	131	156	467
50	36	50	136
57	60	88	205
119	106	111	336
85	68	95	248
79	62	63	204
27	16	25	68
13	9	14	36
610	488	602	1700

合計数

- ・スポーツ誌が欲しい。
- ・もっと広くしていろいろな人気の本がある。
- ・頼んだ本がすぐに見つかる。

Ⅲ. 読書生活について

問14. あなたは本を読むことが好きですか。

- ①たいへん好き
- ②わりあい好き
- ③あまり好きでない
- ④きらい

1年	2年	3年	全体	1年	2年	3年	全体
42	36	51	129	19%	20%	24%	21%
110	89	102	301	51%	48%	48%	49%
45	45	53	143	21%	24%	25%	23%
20	14	8	42	9%	8%	4%	7%

問15. あなたはどのような本を一番よく読んでいますか。

○は一つに限ります。

- ①物語・小説
- ②絵本
- ③伝記
- ④図鑑
- ⑤科学関連の本

1年	2年	3年	全体	1年	2年	3年	全体
150	126	149	425	70%	77%	69%	72%
11	6	12	29	5%	0%	3%	8%
2	4	0	6	1%	0%	0%	0%
2	0	2	4	1%	0%	0%	0%
2	0	2	4	1%	0%	0%	0%

- ⑥歴史関連の本
- ⑦動物や生物関連の本
- ⑧社会問題（環境や福祉・差別など）関連の本
- ⑨スポーツ関連の本
- ⑩芸術（音楽・美術など）関連の本
- ⑪教科などで調べるための本
- ⑫その他

1年	2年	3年	全体	1年	2年	3年	全体
4	2	4	10	2%	0%	3%	0%
5	1	1	7	2%	0%	0%	0%
2	3	1	6	1%	0%	3%	0%
16	26	12	54	7%	14%	6%	9%
2	3	0	5	1%	2%	0%	1%
0	2	3	5	0%	1%	1%	1%
19	9	23	51	9%	5%	11%	8%

・雑誌、漫画をよく読む。 ・単行本、哲学書 ・ドラマの本

問16. あなたはどんな時によく本を読みますか。

- ①学校にいるとき
- ②家に帰ってから
- ③その他

1年	2年	3年	全体	1年	2年	3年	全体
87	74	81	242	41%	40%	39%	40%
106	83	102	291	50%	45%	49%	48%
19	28	24	71	9%	15%	12%	12%

・読まない ・暇なとき ・休みの日 ・寝る前 ・いつでもどこでも

問17. あなたが家で本を読むときは、どのような時間帯が多いですか。

- ①食事までの時間
- ②食事後の時間
- ③寝る前の時間
- ④休みの日の昼
- ⑤休みの日の夜
- ⑥その他

1年	2年	3年	全体	1年	2年	3年	全体
23	13	16	52	9%	3%	7%	3%
22	14	13	49	9%	7%	10%	9%
103	81	92	276	42%	40%	41%	41%
38	34	28	100	16%	17%	13%	15%
34	35	30	99	14%	17%	13%	15%
25	26	44	95	10%	13%	20%	14%

・読まない ・暇なとき

問18. あなたは、普段自分が読んだり調べたりする本を、どのようにして手に入れていますか。

多いものを三つまで○で囲んでください。

- ①自分で買う
- ②家の人に買ってもらう
- ③家にあるものを使う
- ④学校の図書館から借りる
- ⑤公共図書館で借りる
- ⑥友達から借りる
- ⑦先生から借りる
- ⑧その他 ・兄弟に借りる

1年	2年	3年	全体	1年	2年	3年	全体
112	106	105	323	21%	18%	26%	19%
102	103	94	299	19%	25%	22%	31%
105	93	89	287	19%	24%	21%	19%
55	33	30	117	10%	6%	6%	7%
96	62	42	200	18%	14%	10%	14%
59	42	69	170	11%	9%	16%	12%
4	3	0	7	1%	1%	0%	0%
8	8	4	20	1%	2%	1%	1%

問18. あなたは、一学期の1ヶ月の間に、本を何冊ぐらい読みましたか。

- ①0冊
- ②5冊まで
- ③10冊まで
- ④10冊以上

1年	2年	3年	全体	1年	2年	3年	全体
35	33	43	111	16%	20%	21%	19%
141	111	137	389	65%	66%	66%	66%
19	12	18	49	9%	7%	9%	8%
21	13	10	44	10%	8%	5%	7%

※1. 「0冊」だった人は、そのわけをよく考えて、当てはまるものを○で囲んでください。

○は一つに限りません。

- ①学校の勉強や塾・習い事などで忙しい
- ②テレビやテレビゲームの方がおもしろい
- ③外での遊びやスポーツの方が楽しい

1年	2年	3年	全体	1年	2年	3年	全体
8	12	20	40	9%	18%	29%	27%
14	11	17	42	16%	18%	0%	18%
22	19	22	63	25%	27%	43%	36%

- ④読みたい本がない
- ⑤何を読んでいいのか分からない
- ⑥本を読み通すことが苦手だ
- ⑦その他

・面倒 ・おもしろくない・パソコンしている ・時間がない

1年	2年	3年	全体	1年	2年	3年	全体
17	8	15	40	20%	11%	16%	16%
6	5	7	18	7%	7%	8%	7%
13	8	8	29	15%	11%	9%	12%
7	7	2	16	8%	10%	2%	6%

※2. 何冊か読んだ人は、読んだ本の中で図書室で借りたものは何冊ありますか。

- ①ほとんど全部
- ②半分ぐらい
- ③少し
- ④なし

1年	2年	3年	全体	1年	2年	3年	全体
6	8	4	18	3%	5%	2%	3%
10	10	10	30	5%	6%	6%	6%
45	39	31	115	24%	23%	18%	22%
123	114	127	364	67%	67%	74%	69%

問19. あなたは一学期の1ヶ月の間に漫画本（マンガを中心にした雑誌を含む）を何冊ぐらい読みましたか。
番号を1つ○で囲んでください。

- ①0冊
- ②5冊まで
- ③10冊まで
- ④10冊以上

1年	2年	3年	全体	1年	2年	3年	全体
15	23	20	58	7%	13%	10%	10%
53	39	45	137	25%	21%	22%	23%
40	38	41	119	19%	21%	20%	20%
106	82	102	290	50%	45%	49%	48%

問20. あなたは、公共の図書館（中央図書館・北区図書館など）をよく利用しますか。
1つ選んでください。

- ①よく利用する
- ②時々利用する
- ③あまり利用しない
- ④ほとんど利用しない
- ⑤近くに公共図書館がない（①～④と重複あり）

1年	2年	3年	全体	1年	2年	3年	全体
23	19	10	52	10%	10%	5%	8%
89	56	41	186	39%	29%	20%	30%
46	35	40	121	20%	18%	20%	19%
68	85	114	267	30%	44%	56%	43%
34	35	30	99	14%	17%	13%	15%

問21. あなたは本屋さんによく行きますか。1つ選んで下さい。

- ①よく行く
- ②時々行く
- ③あまり行かない
- ④ほとんど行かない（①～④と重複あり）

1年	2年	3年	全体	1年	2年	3年	全体
96	59	94	249	44%	31%	45%	40%
87	91	95	273	40%	47%	45%	44%
21	26	13	60	10%	14%	6%	10%
13	16	9	38	6%	8%	4%	6%

問21. あなたは何か調べたいことが出てきたとき、どのような方法で情報を得ようとしていますか。
○は1つに限りません。

- ①手元にある辞書や事典、本などを使って情報を得る。
- ②学校の図書室の辞書や事典、本などを使って情報を得る。
- ③関係する辞書や事典、本などを新しく買って情報を得る。
- ④公共の図書館の辞書や事典、本などを使って情報を得る。
- ⑤インターネットのウェブ検索を使って情報を得る。
- ⑥家族に尋ねて情報を得る。
- ⑦先生に尋ねて情報を得る。
- ⑧よく知っている人に尋ねて情報を得る。
- ⑤その他 ・テレビ 本屋 友達に聞く

1年	2年	3年	全体	1年	2年	3年	全体
148	102	157	407	68%	67%	70%	35%
52	17	23	92	24%	13%	13%	6%
28	19	31	78	13%	3%	0%	6%
96	67	47	210	44%	67%	40%	19%
160	123	136	419	74%	77%	93%	55%
121	80	118	319	56%	42%	56%	51%
25	8	25	58	12%	4%	12%	9%
85	45	76	206	39%	23%	36%	33%
28	2	5	35	13%	1%	2%	6%

問22. 問21の方法で得た情報に対して、あなたはどのようなことをしたことがありますか。

○は1つに限りません。

- ①情報を必要な内容ごとにファイルしたり、本棚などに整理すること。
- ②内容をそのままノートなどに書き写すこと。
- ③内容を書き写してレポートや新聞の形式などにする。
- ④レポート等にするときに、必要なところ等を自分なりにノートなどにまとめ直すこと。
- ⑤同じ内容・テーマを扱った他の本や雑誌・ホームページなどと読み比べること。
- ⑥いくつかの情報を読み比べる中で、共通点や違いを整理してまとめること。
- ⑦その他 ・頭で覚える ・プリントする

1年	2年	3年	全体	1年	2年	3年	全体
40	39	27	106	18%	17%	27%	19%
96	84	95	275	44%	67%	53%	42%
101	63	46	210	47%	47%	27%	32%
87	57	54	198	40%	30%	26%	32%
70	47	42	159	32%	24%	20%	26%
49	36	31	116	23%	19%	15%	19%
12	9	20	41	6%	5%	9%	7%

問23. 次の事柄^{ことから}について、あてはまるものの番号を○で囲んでください。

○は1つに限りません。

- ①小さい頃、家族によく本を読んでもらった。
- ②学校で先生によく本を読んでもらった。
- ③家族に本を読むように勧められた。
- ④あなたに本を読むように勧める先生がいる。
- ⑤読んだ本について、家族とよく話をする。
- ⑥読んだ本について、先生とよく話をする。
- ⑦友達と本について、よく話をする。
- ⑧プレゼントに本や図書券(カード)をもらうことがある。
- ⑨本(教科書以外)を声に出して読んだことがある。
- ⑩重要だと思うところにアンダーラインや付箋^{ふせん}を本につけながら読んだことがある。
- ⑪同じシリーズやテーマの作品を連続して読んだことがある。
- ⑫同じ作家の作品を続けて読んだことがある。
- ⑬テレビやビデオ・映画などを見て、その原作の本を読んだことがある。
- ⑭題名や帯の解説で本を選んだことがある。
- ⑮友達や家族、先生の紹介から本を読んだことがある。
- ⑯食事やお風呂の時間などを忘れるほど読書に熱中したことがある。
- ⑰読んだ本に出てきた表現やせりふ(言葉)で気に入ったものを覚えたことがある。
- ⑱ほぼ毎日、新聞や雑誌を読む。

1年	2年	3年	全体	1年	2年	3年	全体
98	73	89	260	45%	43%	33%	42%
36	34	14	84	17%	33%	10%	14%
96	64	54	214	44%	33%	33%	35%
18	24	14	56	8%	7%	10%	9%
31	23	20	74	14%	3%	10%	12%
6	6	6	18	3%	3%	0%	3%
68	34	51	153	31%	13%	10%	25%
143	107	120	370	66%	57%	77%	60%
73	31	51	155	34%	17%	20%	25%
35	28	32	95	16%	20%	17%	15%
154	115	152	421	71%	73%	77%	68%
125	89	114	328	58%	50%	53%	53%
155	112	148	415	71%	67%	77%	67%
84	69	100	253	39%	40%	43%	41%
96	65	65	226	44%	34%	31%	36%
83	66	68	217	38%	34%	32%	35%
95	61	73	229	44%	32%	35%	37%
92	58	80	230	42%	30%	38%	37%

問24. 友達に「読書の楽しさって何？」と尋ねられたら、あなたはどうか答えますか。

- ・おもしろい世界がひろがる。 ・自分が主人公になれる。 ・想像力が付くこと ・熱中すること
- ・その物語と同化できる。 ・続編を読む楽しみ ・新しい情報を得る ・のめり込める ・夢中になれる
- ・視野が広がる ・知識が増える ・時間を忘れて、自分の世界に入れる ・物語に引き込まれる
- ・どこでも読める楽しさ ・はらはらどきどきする ・感受性が豊かになる ・心を癒す
- ・希望を与える ・暇をつぶせるいい時間

など

「これからの時代に求められる国語力について -文化審議会答申-」の概要

これからの時代には、これまで以上の国語力が必要

その国語力は、次の2領域で構成される

- ① 中核としての、考える力、感じる力、想像する力、表す力
- ② ①の基盤となる「国語の知識」や「教養・価値観・感性等」

「自ら本に手を伸ばす子供を育てる」ことが最も大きな目標
この達成のためには、「国語教育」と「読書活動」が二つの柱

国語教育の在り方

基本的な認識

- 学校だけでなく**社会全体の課題**
- **言葉への信頼**を教え、**情緒力、論理的思考力、語彙力**の育成を重視
- **発達段階に応じた国語教育**を考えることも有効
 - ① 3歳までは親子のコミュニケーションにより語彙や感性・情緒を育成
 - ② 小学校高学年までは「読む・書くの繰り返し練習」で言葉の知識を育成
 - ③ 中学生以降は論理的思考力を主に、その他の能力も総合的に育成

学校における国語教育

- **国語教育が学校教育の中核**
- 小学校段階で、あらゆる知的活動の**基盤となる国語力の基礎**を築くことが重要。そのため**小学校の国語の時間を大幅に増やす**といった考え方も必要
- 授業の中に、**演劇や音読・暗唱等**を取り入れ、**古典に触れる**ことも大切
- **振り仮名の活用等**により**小学校6年生で常用漢字の大体が読める**よう検討
- 国語力はすべての教科で養われる。特にメモやノートを取ることは大切
- すべての教員の国語力を高めることが重要。そのため研修等を一層充実

家庭や社会での国語教育

- 家庭内のコミュニケーションを確保するには「**テレビを消す時間**」が有効
- 地域で、**高齢者と幼児が一緒に行う音読会**のような催しの実施も効果的

読書活動の在り方

基本的な認識

- 読書は、人類が獲得した文化であり、**一生の財産として、生きる力や、楽しみの基ともなる**
- 国語力を構成する、考える力、感じる力、想像する力、表す力、国語の知識等のいづれにもかかわり、**国語力の向上に不可欠**
- 小学校、中学校、高等学校と進むにつれて「**読む本の冊数**」が減っていくという状況を改めることが何よりも必要

学校における読書活動

- 国語科だけでなく、**学校教育の中での明確な位置付け**が大切
- 自主性を尊重しつつ、**小学校からの継続した読書指導**が大切
- 教員が自らの読書経験を踏まえ、**意欲を引き出す指導**が重要
- 家庭との連絡帳等を利用して、**家庭と連携した読書指導**も有効
- 教科書に**名作のたぐい**を掲載することや、著名な作家の文章に早くから慣れさせるのも大切
- 読書活動を推進するためには、**関係団体との連携**も有効な方策

家庭や社会での読書活動

- 家庭の「**読み聞かせ**」は重要
- **社会教育としての取組**も有効
- 読書環境整備の現状を積極的に情報公開していくことも必要

「これからの時代に求められる国語力について－文化審議会答申－」

I これからの時代に求められる国語力について

第1 国語の果たす役割と国語の重要性

- 母語としての国語という観点から、3点に整理。
 - ① 個人にとっての国語
知的活動，感性・情緒，コミュニケーション能力の基盤として不可欠
 - ② 社会全体にとっての国語
文化の基盤であり，社会生活を成立させ，発展させる手段として重要
 - ③ 社会変化への対応と国語
価値観の多様化，国際化，情報化等の社会変化に対応するために大切

第2 これからの時代に求められる国語力

- 国語力の向上に不断の努力を重ねることは時代を超えて大切。しかし，都市化，国際化，少子高齢化，情報化などが進み，人々の生活を取り巻く環境が急速に変化していくことが予想されるこれからの時代には，これまで以上の国語力が必要。
- これからの時代に求められる「国語力」は，次の二つの領域から成る。
 - ① 国語力の中核を成す「考える力，感じる力，想像する力，表す力」
 - ② ①を支え，その基盤となる「国語の知識」や「教養・価値観・感性等」

第3 望ましい国語力の具体的な目安

- 日本人の成人として，ここまでの国語力は身に付けたいという生涯にわたる努力目標を一つの参考として，「聞く力」「話す力」「読む力」「書く力」に分けて，それぞれの力について，目指すべき具体的な目標を提示。成人に達した段階で各目標の基礎的な力が身に付いていることが望ましい。

II これからの時代に求められる国語力を身に付けるための方策について

国語力を向上させるには「自ら本に手を伸ばす子供を育てる」ことが何よりも大切。この目標を実現するために，「国語教育」と「読書活動」で取り組むべき方策を提示。

第1 国語力を身に付けるための国語教育の在り方

1 国語教育についての基本的な認識

- 国語教育を学校だけでなく，社会全体の課題としてとらえていくことが必要。
- 言葉への信頼を教え，情緒力，論理的思考力，語彙力の育成を図ることが大切。
- 国語力の効果的・効率的な向上を目指すには，一人の人間がどのように発達していくのかという観点から，各発達段階で行うべき国語教育を考えることが必要。例えば，次のような3段階に分けて考えることも可能。
 - ① 3歳までは親子のコミュニケーションを通して，語彙や感性・情緒を育成
 - ② 小学校の高学年までは「読む・書く」の繰り返し練習により，言葉の知識（特に「語彙力」）を確実に身に付けさせることが重要
 - ③ 中学生以降は，論理的思考力をはじめ情緒力，想像力等の総合的な発達を促すことが大切

2 学校における国語教育

(1) 基本的な考え方

- 国語科はもとより各教科その他の教育活動全体の中で、適切かつ効果的な国語の教育が行われること、すなわち**国語の教育を学校教育の中核に据えることが重要**。
- 発達段階から考えて小学校の国語教育は極めて重要。この時期に、あらゆる知的活動の基盤となる国語力の基礎をしっかりと築くため、**小学校の国語の授業時間を大幅に増やす**といった考え方もある。

(2) 国語科教育の在り方

- 国語嫌いの子供を増やさないような「指導の在り方」を一層工夫しながら、**情緒力、論理的思考力、思考そのものを支える語彙力**を確実に育成することを重視。
- 教科内容を、情緒力の育成を中心とした「文学」（あるいは「読書」と、論理的思考力等の育成を中心とした「言語」という2分野に整理することも検討課題。
- 授業の中に、**演劇や音読・暗唱**をこれまで以上に取り入れたり、小学校段階から音読や暗唱にふさわしい**古典の文章にもっと触れたり**できることが大切。
- 小学校の6年生までに、**常用漢字の大体が読める**よう、振り仮名を活用するなどして、現在の「漢字学習の在り方」について検討することも大切な課題。

(3) 国語科と他教科との関係

- 国語力は、理科や社会など、**すべての教科で養われる**という認識が重要。特に、「話す・聞く」の指導や、メモやノートを取るなど、すべての教科でこれまで以上に意識的に行っていくことが必要。
- 子供たちの国語力を向上させるためには、国語科の教員だけでなく、すべての教員が自らの国語力を高める必要があり、国語力に着目した現職教員の研修等の一層の充実を図ることが大切。このことは、教員養成の段階から配慮が必要。

3 家庭や社会における国語教育

(1) 基本的な考え方

- 家庭や社会の国語教育では、言語環境としてのマスコミの影響を考えていくことが必要。また、各人が生涯にわたって国語力の向上に自覚的・継続的に取り組んでいくような社会的な雰囲気醸成していくことも極めて大切。
- **乳幼児の脳の発達には親子のコミュニケーションが最も重要**であり、それが子供の言葉を育て、感性や情緒の育成につながる。また、地域のだれもが子供たちとのコミュニケーションを通して、「国語力を育てる責任を有している」という意識の喚起も大切。

(2) 家庭や地域における取組等

- 子供は読書により言葉の数を増やせるが、更に大切なことは家庭や地域で様々な経験を積ませることで、**言葉と「社会や事物」との関係**を習得することである。
- 家庭内のコミュニケーションを確保するために「**テレビを消す時間**」を作ることや、地域で**高齢者と幼児が一緒に行う音読会**のような催しを実施することも有効。
- 国語力を向上させる上で、マスコミの影響力を積極的に活用することも効果的。

第2 国語力を身に付けるための読書活動の在り方

1 読書活動についての基本的な認識

- 読書は人類が獲得した文化であり、読書習慣を身に付けることは、**国語力を向上させるばかりでなく、一生の財産として生きる力ともなり、楽しみの基ともなる**。
- 国語力との関係でも、国語力を構成している「考える力」「感じる力」「想像する力」「表す力」「国語の知識等」のいずれにもかかわり、これらの力を育てる中核と

なる。特に、すべての活動の基盤ともなる「教養・価値観・感性等」を生涯を通じて身に付けていくために極めて重要。

- 読書活動の現状については、小学校、中学校、高等学校と進むにつれて「読む本の冊数」が減っていくという状況を改めることが何よりも必要。

2 学校における読書活動推進の具体的な取組

(1) 学校図書館の計画的な整備

- 平成5年に、学校図書館図書標準が定められているが、その達成率はいまだに3割台にすぎない。まず、この図書標準を確実に達成することが何よりも大切。
- 学校図書館の図書の選定については、保護者や子供たちの意向にも配慮が必要。また、学校図書館に子供たちを指導できる人が常にいる体制を作ることが大切。

(2) 学校教育における「読書」の位置付け

- 読書活動については、国語科だけでなく、すべての教科にわたって全校を挙げて取り組むものとして、学校教育の中に明確に位置付けられることが必要。
- 読書という活動の特質から自主性・自発性の尊重が重要ではあるが、一方で、読書習慣を身に付けさせるために、小学校段階からの継続した読書指導が必要。

(3) 望ましい「読書指導」の在り方

- 教員が自らの読書経験を踏まえて、個々の子供たちの置かれている状況やそれぞれの考え方・感受性等にきめ細かく配慮した適切な読書指導を行い、読書に対する意欲を引き出すようにしていくことが重要。
- 家庭と連携した読書指導を考えることが大切。家庭との連絡帳等に「読書の欄」を設け、学校での状況を家庭に伝え、読書活動を奨励していくことも有効な方策。

(4) 子供たちが読む本の質的・量的な充実

- 教科書に掲載する教材の数を増やすことも検討する必要がある。また、教科書等に載せる文章については、評価の定まった名作のたぐいも大いに利用されてよい。さらに、振り仮名を振れば、小学生でも読めるので、著名な作家や著述家の文章に早い時期から慣れさせることも大切。
- 読書活動の推進運動を展開していくために、関係団体との連携・協力の下、出版社や作家・著述家など関係者への働き掛けを進めていくことも有効な方策の一つ。

3 家庭や社会における読書活動推進の具体的な取組

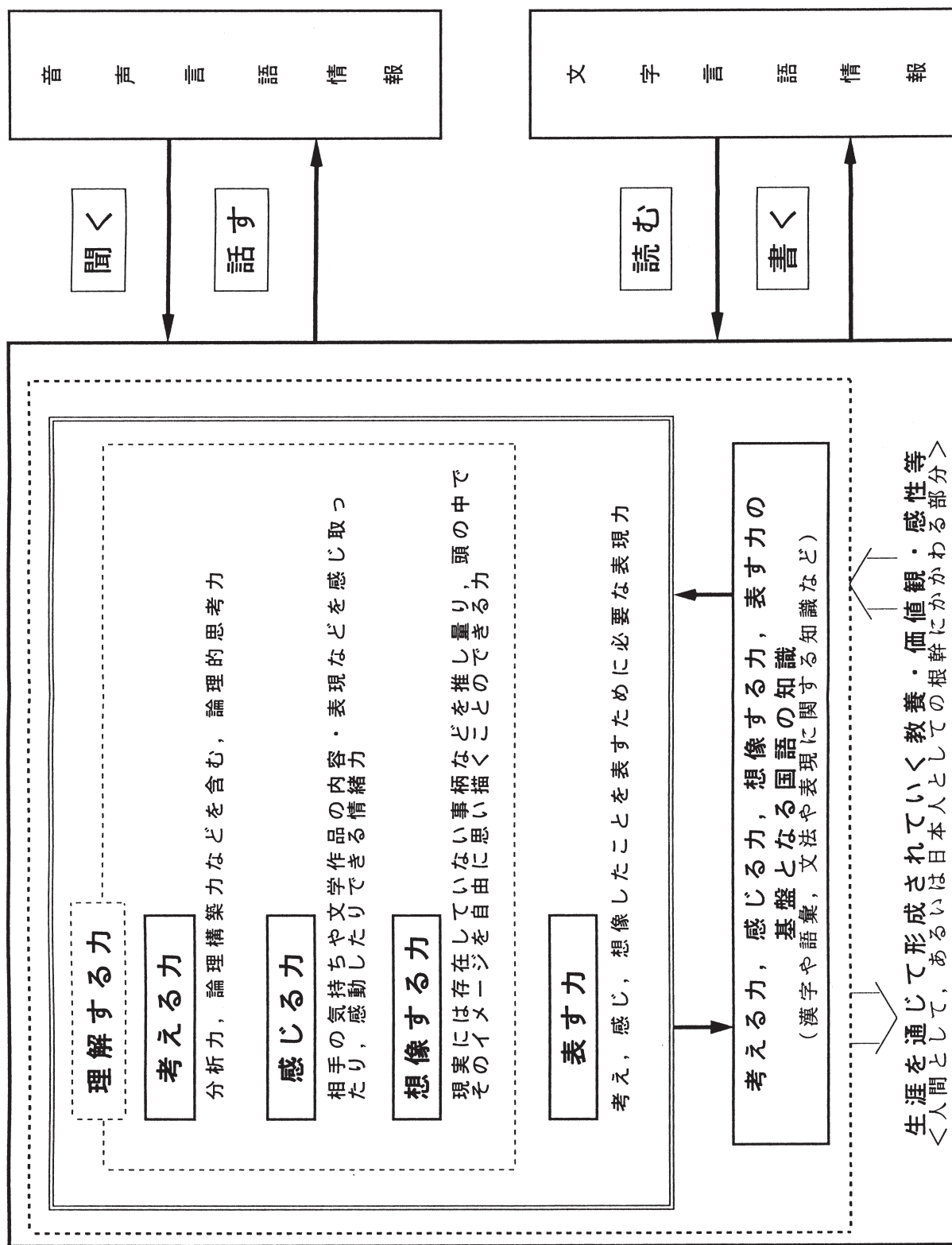
(1) 家庭や地域社会における読書活動の支援

- 本を読むようにするための「最初の入り口」は聞かせることにあり、「読み聞かせ」が重要。具体的な取組としては、「読み聞かせ」の楽しさを親に感じさせるため、母親だけでなく父親も参加できるような場を設定していくことなどが大切。
- 現在、各種サークル等で進められている「読み聞かせ運動」や、地方公共団体等で進められている「ブックスタート運動」などの情報の共有化を図ることが重要。
- 学校教育の中だけで読書活動を推進していくことには限界があるので、学校週5日制を活用して、社会教育の面から、土曜日を活用するなどの取組も必要。

(2) 読書環境にかかわる情報の公開

- 各種図書館における「図書の整備」を十分に進めていくためには、国や地方公共団体が読書環境の整備の現状についての情報を積極的に公開していくことが大切。
- 現在、地方公共団体では「子ども読書活動推進計画」を策定しているところであるが、推進計画においては抽象的な目標でなく、数値目標を示すことが望ましい。

〈参考〉 これからの時代に求められる「国語力」の構造（モデル図）



望ましい国語力の具体的な目安

■「聞く力・話す力・読む力・書く力」の具体的な目標■

(1)「聞く力」について

1) 話の要旨を的確に把握して、その内容を理解できる

- ①事実や根拠などに注意しながら、話の内容を正確に聞き取ることができる。
- ②聞いた内容をメモに取ったりして、話の構成や展開を理解できる。
- ③話を分析的・批判的に聞き、自分の意見や考えを組み立てることができる。

2) 話し手の気持ちや主張だけでなく、言外の思いや真意を感じ取ることができる

- ①話し手が何を言いたいのかを探りながら、話を聞くことができる。
- ②話し手に共感でき、言外の思いも感じ取るように聞くことができる。

3) 場面に応じて最後まで集中して、聞くことができる

- ①話の形態や話し手との社会的関係に対応した聞き方ができる。
- ②話し手の意図を考えながら、講話や講演を集中して聞くことができる。
- ③話をしっかりと聞き取り、確認すべき情報を整理して質問できる。

(2)「話す力」について

1) 自分の考えを明確にして、説得力を持って論理的に伝えることができる

- ①自分の考えや意見を整理し、根拠や理由を明確にした論理的な話し方ができる。
- ②相手の話を受け、その内容を踏まえて自分の考えや意見を話すことができる。
- ③会議や集会などで、自分の考えや意見を適切に発表することができる。

2) 相手や場面・目的に応じ、伝えるべき内容を分かりやすく話すことができる

- ①他者に配慮した（不快感を与えない、傷つけない）話し方ができる。
- ②話し合うことによって、相手との人間関係を深めることができる。
- ③場面や目的に応じた言葉を選び、表現に注意して情報を伝えることができる。
- ④敬意表現を適切に使った話し方ができる。

3) 発声・発音・態度などを相手や場面に応じて、コントロールできる

- ①他者の前で落ち着いた態度で話すことができる。
- ②聞き取りやすい音声（声量・速さ・声の調子など）で話すことができる。
- ③大事なところを強調したり、間の取り方を工夫したりできる。

(3)「読む力」について

1) 論理的・説明的な文章において、的確に論理を読み取ることができる

- ①新聞や雑誌などを読んで情報を正確に理解できる。
- ②文章の構成や論理の展開に沿って、内容を読み取ることができる。
- ③事実や意見等を区別して読み取ることができる。
- ④課題解決のために必要な情報を収集し、情報を処理するための読み方ができる。

2) 文学的な文章において、気持ちや感情を十分に読み取ることができる

- ①様々な描写をとらえ、内容を的確に理解できる。
- ②登場人物に感情移入し、その心情を理解できる。
- ③比喩的、多義的、含意的な文章表現を読み味わうことができる。
- ④書き手の思考や心情などに迫ることができる。

3) 古典（古文、漢文）の文章に親しむことができる

- ①代表的な古典作品のリズムや響きなどを理解できる。
- ②古典の音読や暗唱を重視し、日本の伝統的な文化に親しむことができる。

(4)「書く力」について

1) 自分の考えや意見などを正確に伝える論理的な文章を書くことができる

- ①客観的な根拠や理由に基づいて、自分の考えや意見を書くことができる。
- ②読み手が理解しやすい構成を意識して、文章を書くことができる。
- ③事実や根拠などを明らかにした論理的な文章を書くことができる。
- ④単なる感想文ではなく、思考、分析、判断を伴う小論文を書くことができる。

2) 伝統的な形式や書式に従った手紙や通信などの文章を書くことができる

- ①自分の気持ちなどを正確に相手に伝えられるように書くことができる。
- ②社会生活に必要な実用的な文章をそれぞれの様式に従って書くことができる。
- ③社会的な関係を踏まえた適切な敬語などを用いて書くことができる。
- ④言葉を適切に使分け、その場にふさわしい言葉を用いて書くことができる。

3) 様々な情報を収集して、それに基づいて明確な文章を書くことができる

- ①本やインターネットなどからの的確な情報を収集して、文章を書くことができる。
- ②収集した情報を正確に分析し、分かりやすい要約文にまとめることができる。
- ③会議や集会などで、分かりやすく説明するための資料を作成することができる。

おわりに

2年間文部科学省の指定を受け、国語力向上モデル事業「国語教育推進校」の一つとして取り組んでまいりました。平成16年2月3日、文部科学大臣に答申された「Ⅰこれからの時代に求められる国語力について」「Ⅱこれからの時代に求められる国語力を身に付けるための方策について」のもとに、本校としては、「伝え合う力」を各教科及び総合的な学習の時間の中で、また特別活動（学級活動・生徒会活動等）の中で、どのようにして育成するのかを進めてまいりました。2年間のテーマ「人として心豊かに生きていく国語力を育む」のもとに、1年次では、副主題「一個と個を結ぶ国語力を育む」として、各教科及び総合的な学習の時間の中で、「伝え合う力」をどのように育成するのかという視点で研究を行い、その育成のために学習の評価を踏まえた指導の改善（いわゆる指導と評価の一体化）を推進する取組を行ってまいりました。

最終年次では、副主題「一個と社会を結ぶ国語力を育む」として、各教科及び総合的な学習の時間だけでなく、特別活動（学級活動・生徒会活動等）でも「伝え合う力」の育成を目指してまいりました。

さて、文部科学省の指定を受けた時点では、ほとんど全員の教員が、国語科教員の実践研究だと認識していました。ところが、国語力向上モデル事業実施要項の趣旨は、『モデル事業地域及び推進校においては、相手や目的、場面に応じて国語を適切に表現し正確に理解する能力など、学習指導要領国語科のねらいとする「伝え合う力」を高めるため、国語科はもとより国語科と各教科等とを関連付けながら、国語力向上に総合的に取り組み、その成果の普及を図る。』でありました。

そこで、その趣旨を理解し、今まで熟読したことのなかった各教科・総則の学習指導要領の解説（平成10年12月）を、国語力向上研究推進委員会や各教科会等で熟読し、「伝え合う力」の育成の視点で、実践研究を行ってまいりました。

この取組は、今後も継続して進めていく所存ですが、学校教育だけでは限界があります。中学生になった生徒の幼少時代から、いかにことば（国語）に接する機会が多くあったのかということです。すなわち、家庭での「読み聞かせ」「会話」の機会を増やすことであります。特に、現在、家庭では子どもがテレビゲームや携帯電話のメールに終始し、家庭での会話や子どもへの本の読み聞かせ等不足しているのではないのでしょうか。

また、地域では、中学生になった子どもたちにことば（国語）かけが不足しているのではないのでしょうか。本校の子供たちが、将来を背負っていくにあたって、家庭や地域の教育の重要性が増していきます。そして、家庭や地域教育を基盤としながら、中学生の育成に学校教育があると思います。

このように、子どもたちの「国語離れ」を解消するためには、大人たちの「国語離れ」を解消することが一番だと思います。家庭や地域、そして学校での読書活動によって、文化審議会が言う「自ら本に手を伸ばす子どもを育てる」教育を進めていくことができるのだと思います。

教頭 安村 公男